

生活の質の向上にはつながりません。デジタル時代は人間関係の任意な取捨選択を生み、内なる豊かさへの脅威となっています。真の叡智は省察や対話や人々の豊かな出会いの実りだからです。詰め込みやデータの蓄積は他者への感情の欠如を伴い、そこから内奥の豊かさが得られることはありません。

現在、宣教委員会で検討しているプログラム案について

宣教主事 司祭 サムエル 北澤 洋(鎌倉聖ミカエル教会牧師)

宣教委員会では、2019年春に教区的全教会・伝道所を対象に行われた調査に基づく「洗礼堅信受領年齢データ」の分析を行い、4つのポイントを見つけ、それにアプローチするプログラム案を検討しています。下記のようなものです。

1. 信徒の子供が、必ずしも幼児洗礼を受けていない状況

課題：信徒の子供をいかに幼児洗礼へ繋げるか →両親へのアプローチが必要

☆プログラム案：「家庭で信仰を育むための祈りの本」(仮題)の作成・配布

2. 幼児洗礼受領者が、必ずしも堅信を受けていない状況

課題：幼児洗礼受領者をいかに堅信へ結びつけるか

→小学校高学年までの幼児洗礼受領者・両親・教父母へのアプローチが必要

☆プログラム案：①上記「祈りの本」の作成・配布

②教父母研修会・交流会の開催

③Zoomなどインターネットを介した堅信準備プログラム

3. 20代になる信徒(洗礼受領者・堅信受領者)が、進学や就職を機に母教会から離れ、もしくは主日になかなか教会に足が向かなくなり、そのままになってしまう状況

課題：20代になる信徒をいかに継続的な教会生活(信仰生活)へ導くか

→20代の青年たちへのアプローチが必要

☆プログラム案：①上記「祈りの本」の作成・配布

②土曜日のプログラム(礼拝、交流会、夕食会など)

③インターネットプログラム(交流会、勉強会など)

4. 堅信受領者が、必ずしも教会に繋がっていない状況

課題：堅信受領者をいかに継続的な教会生活(信仰生活)へ導くか

→すべての年齢の堅信受領者へのアプローチが必要

☆プログラム案：①上記「祈りの本」の作成・配布

②宣教課題を「言葉化」するプログラム(信徒懇談会)による意識改革

これらのプログラム案のうち、宣教委員会では「家庭で信仰を育むための祈りの本」の作成・配布、教父母研修会・交流会の開催、宣教課題を「言葉化」するプログラムの実施に向けて動いています。

これらのプログラム案は必ずしも教区全体で行うことを念頭に出されたものではなく、各教会・伝道所で個別に行う方がよいと思われるものもあります。参考にできるものがあれば、どうぞ参考にしてください。また、もっとよいアイデアがあれば、宣教主事か宣教委員までご連絡いただければ幸いです。